

人間病態学(病気の成り立ち) Human Pathology

担当教員	今井 美和										
実務経験	病院勤務経験のある教員が担当										
開講年次	1年次後期	単位数	2				授業形態	講義			
必修・選択	必修	時間数	30								
該当ディプロマポリシー	(1)		(2)	○	(3)	◎	(4)		(5)		(6)
Keywords	病理、病因、微生物、感染、予防、細菌、ウイルス、真菌、原虫、細胞傷害、免疫、炎症、創傷治癒、循環障害、先天異常、腫瘍										
学習目的・目標	目的:疾患の成り立ちを理解する基盤として、基本的病変、生体防御機構、病原微生物に関する基礎知識を体系的に習得する。これにより、患者の症状や検査所見が「なぜ生じるのか」という視点から捉え、考える力を養う。 目標:病理学および微生物学の専門用語を説明できる。										
授業計画・内容											
回	内容										
1	オリエンテーション 病理学概論:疾病の分類 病因:内因、外因										【講義】
2-5	微生物学総論: 生物の分類、細胞内寄生体、歴史、感染、感染症、伝染病、 感染源、感染経路、宿主、宿主-寄生体関係、常在微生物叢、媒介動物、 新興感染症、再興感染症、人獣共通感染症、日和見感染、菌交代症、院内感染、食中毒、性感染症、輸入感染症 微生物の特徴:形態、分類、増殖 細菌:グラム陽性菌、グラム陰性菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア ウイルス:DNAウイルス、RNAウイルス プリオン 真菌:接合菌類、子嚢菌類、担子菌類、不完全菌類 原虫:アメーバ類、鞭毛虫類、繊毛虫類、孢子虫類 感染症の予防、化学療法、薬剤耐性										【講義】
6	細胞傷害: 萎縮、肥大、過形成、化生、変性、壊死、アポトーシス										【講義】
7-9	免疫: MHC、HLA、自然免疫、獲得免疫、免疫担当細胞、サイトカイン、抗原、抗体、抗原認識、補体、 免疫応答、細胞性免疫、液性免疫 炎症: 徴候、炎症に関わる細胞、炎症反応、急性炎症、慢性炎症、肉芽腫性炎 創傷治癒: 再生、肉芽組織、瘢痕										【講義】
10-11	循環障害: 水腫(浮腫)、虚血、充血、うっ血、出血、止血、血栓症、塞栓症、梗塞										【講義】
12	先天異常: 奇形、染色体異常、遺伝子異常、胎児障害										【講義】
13-15	腫瘍: 疫学、異型度、分化度、悪性度、良性腫瘍、悪性腫瘍、上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、混合腫瘍、がん腫、肉腫、 浸潤、転移、異形成、深達度、病期、腫瘍と宿主の関係、原因と発生のメカニズム										【講義】
教科書	人間病態学(病気の成り立ち) PDFファイル ステップアップ病理学ノート 第2版(サイオ出版) ステップアップ微生物学ノート 第2版(サイオ出版)										
参考図書等	ルービン カラー基本病理学(西村書店) カラーで学べる病理学(ヌーヴェルヒロカワ) ビジュアル微生物学(ヌーヴェルヒロカワ)										
評価指標	定期試験の受験資格 ・履修登録の完了 ・授業回数2/3以上の出席 評価基準 定期試験の結果 70% + 課題の遂行・提出状況 30% により評価 課題については授業内で総括フィードバックを実施										
関連科目	解剖生理学、代謝と栄養、人間病態学演習Ⅰ、人間病態学演習Ⅱ、疾病障害論、薬理学、公衆衛生学										
教員から学生へのメッセージ	解剖生理学、代謝と栄養で学んだ基礎知識を身につけたうえで、授業に出席してください。 授業の予習、復習を行い、確実に知識を身につけて下さい。										